

琉球大学学術リポジトリ

平成26年度 トータル支援活動について

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2015-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浦崎, 武 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/31034 |

平成26年度 トータル支援活動について

浦 崎 武¹⁾

Fiscal Year 2014 The Total Support Project

Takeshi URASAKI

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターでは2006年10月より実践トータル支援活動がスタートし、本年度で8年が過ぎ、9年目に入った。来年度は10周年目に入ることもあり、今までの取り組みの評価と今後の取り組みへのビジョンが必要である。

「トータル支援教室」を中心的な事業として、今まで8年半で、134回の企画案を実践してきた。「トータル支援教室」は地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、「トータル支援教室」と呼んでいる。また、子どもたちとの関わりを通して子どもたちの特性を多角的に捉え、支援教育の多様性を追求し総合的包括的に支援していく上でも「トータル支援教室」と呼んでいる。この教室は個別支援、集団支援、学校および教育機関との連携支援、子育て支援という4つの柱から成り立っている。活動への参加者は、子どもたちを支援することで、子どもたちから発達支援、教育実践を学ぶ。その活動の終了後、子どもたちとの関わりによるエピソードを具体的にとりあげ、反省会を行い、そして、その後、参加メンバーみんなで行う交流ミーティングを通して子どもたちの理解および支援のあり方を深めている。

当センターでは「特別研究員制度」による特別研究員の活躍により、センター活動がより充実してきたことが実感できた。特に23年度よりセンターの特別研究員（武田喜乃恵）が常駐することができたこともあり、充実した地域貢献活動、教育および研究活動を行うことができるようになった。本年度まで崎濱朋子（沖縄市立比屋根小学校教頭）、瀬底正

栄（浦添市教育委員会指導主事）、武田喜乃恵（発達支援教育実践センター相談員）、金城明美（宜野湾市立長田小学校教頭）、大城麻紀子（沖縄県立高等特別支援学校教頭）、瀬底絵里子（育児休業中）、久志峰之（那覇少年鑑別所）、本間七瀬（新川小学校教諭）、運道恵理子（新川小学校教諭）、棚原こずえ（みやなが幼稚園教諭）、入嵩西清幸（大浜中学校教頭）、富盛さゆり（エルケア医療保育専門学校）11人の特別研究員が、子どもたちへの支援をするとともに、子どもたちから実践を学んできた。

定期的なトータル支援活動として「トータル支援教室（集団支援教室）」を月2回、教員、学生および発達支援教育に関する専門家を交えて「実践事例研究会」を月1回、また教員や保護者を対象にした「相談支援」、子どもたちに継続的なサポートが必要であれば定期的に支援を行う「個別支援」等を行ってきた。大学を拠点とする定期的なトータル支援活動は様々な事業の基盤をなす取り組みとなっており、具体的な地域協働活動のネットワークの要となっている。

本年度、施設も「手洗い」が設置され、来年度以降、企画の取り組みの幅が広がる予定である。一昨年から反響防止のための防音壁、ソフトで安全な側壁、窓に柵を設置し、プレイルームの鏡等、安心して安全を保障しつつ、実践に必要な環境の整備が整ってきた。本年度、電子黒板も導入されたこともあり、来年度以降、子どもたちの支援と支援スタッフの学びの場が充実する。

センターの支援活動は9年目に入り、その支援論について『発達障がい児の集団支援における＜向かう力＞の生成－『トータル』の実践を振り返って－（浦崎武 武田喜乃恵）』、『発達障がい児の集団支援

¹⁾ Faculty of Education, Uni. of the Ryukyus

における企画の変遷過程と「場」の意義—トータル支援教室の実践を振り返って—（武田喜乃恵 浦崎武）』と題して紀要にまとめた。さらに7年間の支援を行った男児への実践について『トータル支援教室に参加した発達気になる男児の7年間の変容過程（武田喜乃恵）』と題してまとめた。

また、地域拠点型の八重山の地域スタッフが中心となった「トータル支援教室 in 八重山」は4年目を迎えた。八重山教育事務所を中心とした石垣市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会の実施体制も整い、支援プログラムも軌道に乗り、地域内の発信が必要となってきた。八重山地域での取り組みの成果は『高機能自閉症をもつ低学年男児に対する情動の共有経験を積む支援—通級指導と集団支援を通して—（本間七瀬 武田喜乃恵 浦崎武）』として紀要にまとめた。

さらに昨年度、国頭教育事務所の共催により金武町で実施してきた1日キャンプは昨年度から沖縄市立比屋根小学校の子どもたちも加わり、中頭教育事務所の共催を得て、中北部地域連携活動へと発展して2年目を迎えた。積極的に離島・へき地に出向き、地域の土壌に触れながら子どもたちや発達支援教育に携わる先生や支援者と関わり、ともに学び合うことができた。

昨年度から引き続き、教育学部への沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業：沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト』に参画した。本センターでは「気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築—「トータル支援教室」における学校支援の展開と「他者との繋がり」を育む教育実践—」と題して実践が行われた。本センターの特別研究員である崎濱朋子氏が教頭を務める沖縄市立比屋根小学校と共同実践研究を、2年間、実施した。その成果は3月に行われた教育学部の報告会において報告した。さらに紀要『楽しみのなかから生まれてくる〈向かう力〉と〈受け止める力〉—通級指導教室と特別支援学級の合同実践—（崎濱朋子 末吉麻紀 内間貴秋 武田喜乃恵 浦崎武）』と題し、まとめた。

4年目に入った「海プロジェクト（日本財団）」では、昨年度、東京大学主催による第1回全国海洋教育サミットに声をかけて戴いた。昨年度の総評においては実践を高く認めてもらえたこともあり、本年度、開催された第2回においても発表する機会を得ることができ、今までの取り組みを報告することができた。その成果を紀要『海をテーマにしたトー

タル支援教室の取り組みを通して—受け止める姿・向かう姿から—（久志峰之 大城麻紀子 金城明美 武田喜乃恵 浦崎武）』にまとめた。

大学中期計画実現のための「附属学校における児童・生徒・保護者のメンタルヘルス及び発達適応支援と学生・教員のメンタルヘルス及び発達適応支援システムの充実」等の事業を行った。特に中期計画実現へ向けて、月1回の校内委員会および巡回相談を定着させ、附属小学校との連携を深め、「教育支援」、「相談支援」への一層の充実を目差した。また、相談機能が地域支援へと展開するように宮古地域の福祉保健所と多良間村教育委員会との連携による研修会を実施した。今後、子どもたちを集めた支援教室の発展を考えている。

当センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され、期待の高まりとともに、より一層の努力が求められていることを痛感した。

本紀要において当センターの本年度事業の実践研究の成果をまとめた。センターが実施してきたトータル支援教室における支援姿勢を『発達障がい児の集団支援における〈向かう力〉の生成—「トータル支援」の実践を振り返って—（浦崎武 武田喜乃恵）』、『発達障がい児の集団支援における企画の変遷過程と「場」の意義—トータル支援教室の実践を振り返って—（武田喜乃恵 浦崎武）』、長期的実践事例を『トータル支援教室に参加した発達気になる男児の7年間の変容過程（武田喜乃恵）』、海プロジェクトとして『海をテーマにしたトータル支援教室の取り組みを通して—受け止める姿・向かう姿から—（久志峰之 大城麻紀子 金城明美 武田喜乃恵 浦崎武）』、トータル支援教室の集団支援と学校の協働実践研究として『向かう力と受け止める力が生まれる集団の場と取り組み—特別支援学級での実践を通して—（瀬底正栄 武田喜乃恵 浦崎武）』、八重山におけるトータル支援教室の集団支援と学校の協働実践研究として『高機能自閉症をもつ低学年男児に対する情動の共有経験を積む支援—通級指導と集団支援を通して—（本間七瀬 武田喜乃恵 浦崎武）』、学力向上先進地域育成プロジェクトでの特別支援教室からの発信として『楽しみのなかから生まれてくる〈向かう力〉と〈受け止める力〉—通級指導教室と特別支援学級の合同実践—（崎濱 朋子 末吉麻紀 内間貴秋 武田喜乃恵 浦崎武）』を紀要にまとめた。

トータル支援教室

集団支援の実践研究

発達障がい児の集団支援における〈向かう力〉の生成－「トータル支援」の実践を振り返って－（浦崎武 武田喜乃恵）

発達障がい児の集団支援における企画の変遷過程と「場」の意義－トータル支援教室の実践を振り返って－（武田喜乃恵 浦崎武）

集団支援の事例研究

トータル支援教室に参加した発達障がいの男児の7年間の変容過程（武田喜乃恵）

地域協働プロジェクト：集団支援と学校の協働実践研究

向かう力と受け止める力が生まれる集団の場と取り組み－特別支援学級での実践を通して－（瀬底正栄 武田喜乃恵 浦崎武）

高機能自閉症をもつ低学年男児に対する情動の共有経験を積む支援－通級指導と集団支援を通して－（本間七瀬 武田喜乃恵 浦崎武）

海プロジェクト：地域協働による実践研究

海をテーマにしたトータル支援教室の取り組みを通して－受け止める姿・向かう姿から－（久志峰之大城麻紀子 金城明美 武田喜乃恵 浦崎武）

学力向上先進地域育成プロジェクト

楽しみのなかから生まれてくる〈向かう力〉と〈受け止める力〉－通級指導教室と特別支援学級の合同実践－（崎濱朋子 末吉麻紀 内間貴秋 武田喜乃恵 浦崎武）